

亀山本徳寺の除夜から元旦にかけての行事

鐘楼台での作法



鐘楼堂で讚仏偈のお勤めをしてから鐘突が始まります。梵鐘には南無阿弥陀仏の名号と響流十方が刻まれ、仏の願力が一切の衆生を目覚めさせんとして鐘の音が限無く響き渡ることを意味しています。

真宗寺院の鐘突は、古い歳神を追い出し、新しい福の神を呼び入れるものではありません。外在の神をもって我が願いを祈るのではなく、内在の仏に出会って、我が一年の反省をし、あらゆる仏縁に感謝し、来年の新たな志を自念するのが慣わしです。



本堂での勤行作法

鐘突が終われば、本堂に入って、年始めの晨朝勤行に参加します。親鸞聖人の書かれた念仏正信偈を読誦し、和讚を頂きます。この作法は、真宗の門徒が長く続けてきた文化です。後は、年頭の法話があり、みんなでお屠蘇を頂いて行事が終わります。

